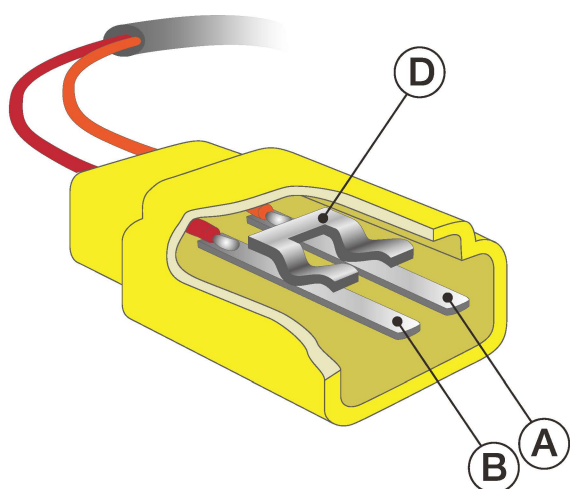


サイドエアバックキャンセラー 取り扱い説明書

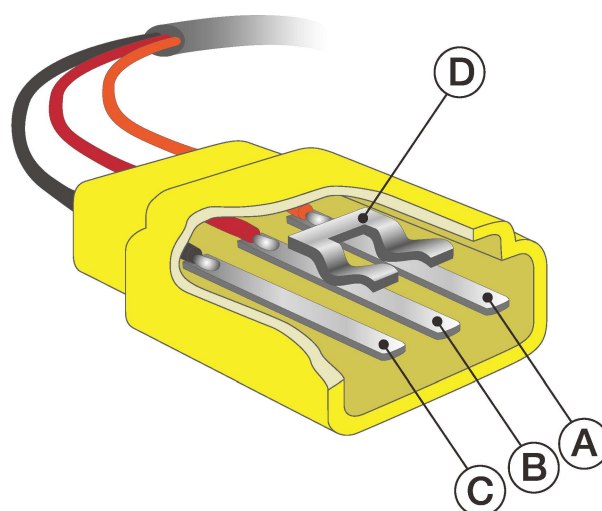
サイドエアバッグが装備された純正シートを取り外すと、メーターパネルの警告灯がエアバッグの異常を示し点灯します。これを点灯しないようにする対策部品です。



他の(取り外した純正シート以外の)エアバッグシステムが正常に作動することを保証するものではありません。エアバッグの取り外し及び本製品の取り付けにおいて発生した事故などにつきましては、いかなる理由であっても弊社では責任を負いません。また、いかなる状況においても、工賃の保証は致しかねますので、あらかじめご了承のうえ、作業を行って下さい。



2極サイドエアバッグ カプラー



3極サイドエアバッグ カプラー

- ①バッテリーのマイナス端子を取り外し、(※注)エアバッグモジュールの残留電圧を放電させるため、3分ほど時間をおいてからカプラーを外して下さい。ホーンボタンを押しても、ホーンが鳴らなければ放電が完了しています。

※注: 高年式の輸入車などで、端子を取り外したことがコンピューターに記憶され、カーディーラーにてコンピューター(エラー)のリセットを行っても、履歴として残る場合があります。こういった車種では、エアバッグ以外の電装品がキャンバスシステムで集中管理されている場合が多く、弊社では専門店の作業を推奨しています。

- ②車種により2極と3極のカプラーがあり、上図Dの部分で短絡する仕様になっているカプラーがサイドエアバッグのカプラーになります。国産車の場合は、黄色のカプラーがサイドエアバッグのカプラーであることがほとんどですが、集中カプラーや輸入車の場合は、異なる色が多く見受けられます。(ご不明の際は、自動車メーカーの整備書をご参照下さい。)

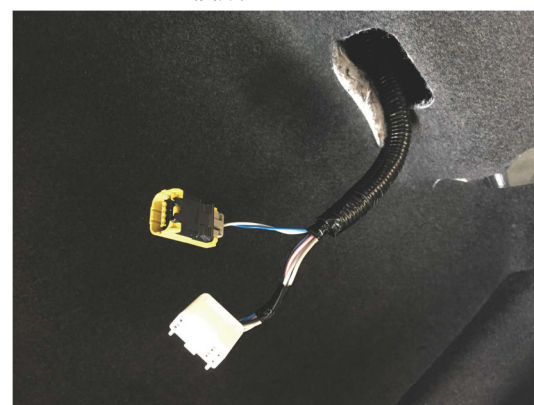
- ③上図A・Bに該当する配線に、サイドエアバッグキャンセラーを接続します(※注)。3極カプラーの上図Cはアース配線のため、接続しないで下さい。

※注: 接続不良を避けるため「はんだ付け」を推奨しています。

- ④バッテリーのマイナス端子をつなぎ、イグニッションをオンにして(※注)、エアバッグの警告灯が消灯するか確認下さい。

※注: 他に移設が必要な電子ユニットがある場合は、移設を行ってからオンにしてください。

複数カプラー



集中カプラー



サイドエアバッグキャンセラーのしくみ

純正シートを取り外した際にサイドエアバッグが無くなってしまう(在るべきものが無くなってしまう)ために、コンピューターが異常を検知し、警告灯が点灯します。

サイドエアバッグの代わりに、抵抗(サイドエアバッグキャンセラー)を取り付けることにより、サイドエアバッグが在るかのようにコンピューターに認識させることで、警告灯を消灯させています。

警告灯が消灯しない場合の対処法

①警告灯が消灯しない場合は、その理由にサイドエアバッグキャンセラー自体の不良、もしくは接続不良が挙げられます。

- ・接続されているカプラー及び配線に間違いがないかをご確認下さい。
- ・バッテリーのマイナス端子を取り外してから作業をされたでしょうか。
- ・マイナス端子を取り外してから、3分ほど時間をおいてカプラーを外されたでしょうか。
- ・作業を終える前に、イグニッションをオンにされていないでしょうか。

検電器(テスター)をお持ちでしたら、接続部分の導通チェックを行って下さい。

導通に問題がなかった場合は、サイドエアバッグキャンセラー自体の抵抗値を計測していただき、お手数ですが弊社までご連絡下さい。

②エアバッグは安全装置のため、一部の車種では一旦検知した異常を意図的にコンピューターに記憶させ、正しい作業手順で、再度サイドエアバッグキャンセラーを取り付けましても、警告灯が消灯しない場合があります。まずは純正シートに戻し(カプラーをはめて)警告灯が消灯するかをご確認下さい。

・消灯した場合

正しい作業手順で、再度サイドエアバッグキャンセラーを取り付けて下さい。
それでも警告灯が消灯しない場合は、お手数ですが弊社までご連絡下さい。

・消灯しなかった場合

カーディーラーにてコンピューター(エラー)のリセットを行い(※注)、警告灯を消灯させたくて弊社までご連絡下さい。新しいサイドエアバッグキャンセラーをお送り致しますので、そちらをご使用いただき、正しい作業手順でサイドエアバッグキャンセラーを取り付けて下さい。

※注:リセットにかかる費用は保証致しかねますので、あらかじめご了承下さい。